

大切な情報 ～ 温故知新 ～

磯田 康範

日本赤十字社診療放射線技師会電子会誌70周年記念会誌発刊をこころよりお祝い申し上げます。わたしは昭和56年に松江赤十字病に入社いたしました。これと同時に当会へ入会する運びとなりましたが、これは必然の時代でした。また、その他の技師会、技術学会も同様でした。故に技師会費も個人で支出していましたので、新人には負担と感じていました。この先、更に他の学会へ入会し、退職時には6学会に所属していましたので、年間の全会費は結構なものでした。当時では「情報」という言葉は無く、とにかく情報を自身で掴む必要性を考えて参りました。技師（業を磨いたもの）は技術習得を行う者で学問は必要とされませんでした。これにより病院組織内でも居心地はあまりよくない印象を感じていました。その中で、技師会、技術学、業者さんからの情報はとても貴重でありました。各装置間の違いにより知識、技術の格差が生じるのは必然でした。我々は医療情報[画像、定性値（一部定量値）]を臨床へ提供することが責務です。国民の皆さんは同じ医療費を支払って診断・治療を受けるのですから、病院の検査はどこも同じと思われています。装置間があっても技師間の格差は出来るだけ少なくしなければと思ったものでした。学会への参加も地域性もあり容易に参加も大変で隣県へは2～3時間かかります。その中で技師会誌はとても重要な情報源と思いました。当技師会へ理事（事務局）として微力ながら活動させていただきました。発足当時は関東地域の技師会員の皆様を中心とした組織でした。その活動を冊子として発刊されていたので、事務局を引継いだときには、この冊子が段ボール何箱もお預かり頂いた時には呆然としました。とても大切な冊子を全て纏めて製本させて頂きました。その後、この製本を全てPDFに纏められたのは圧巻でとても感心いたしました。これまでの技師会の活動内容を大切することは全て先輩諸氏、会員の皆様への敬意と考えます。最近では世界の情報を瞬時に手に入れることが可能となりました。昔は雑誌や自分の目でしか得られなかったことが、スマホやパソコンから手に入る時代になりました。これは大きな効果として我々は恩恵を受けています。しかし、それらを取り入れる柔軟な思考も必要となります。膨大な情報を自身で咀嚼する能力はとても大切です。最新の情報は大切ですが、諸先輩から発せられた情報はとても重要です…「温故知新 故きを温ねて新しきを知る」。既に日本赤十字社診療放射線技師会はこれらを見つめて活動をされています。赤十字社ならではの活動状況、社員職員間の情報提供など含めたものなど、引続き先の方向性について発信して頂ければ幸いです。IT時代での問題がこれから湧き上がってくるものと思われませんが、どうか「継続」されますことをご祈念いたしまして、御祝の言葉とさせていただきます。この機会を与えていただきました役員ご一同様に感謝申し上げます。